

令和5年10月21日

第7回 野菜づくり講座

隠岐支庁農林水産局 農業振興部
隠岐地域振興第一課
松浦 有紀

本日の講義内容

- タマネギ栽培ポイント
- 雑草対策について

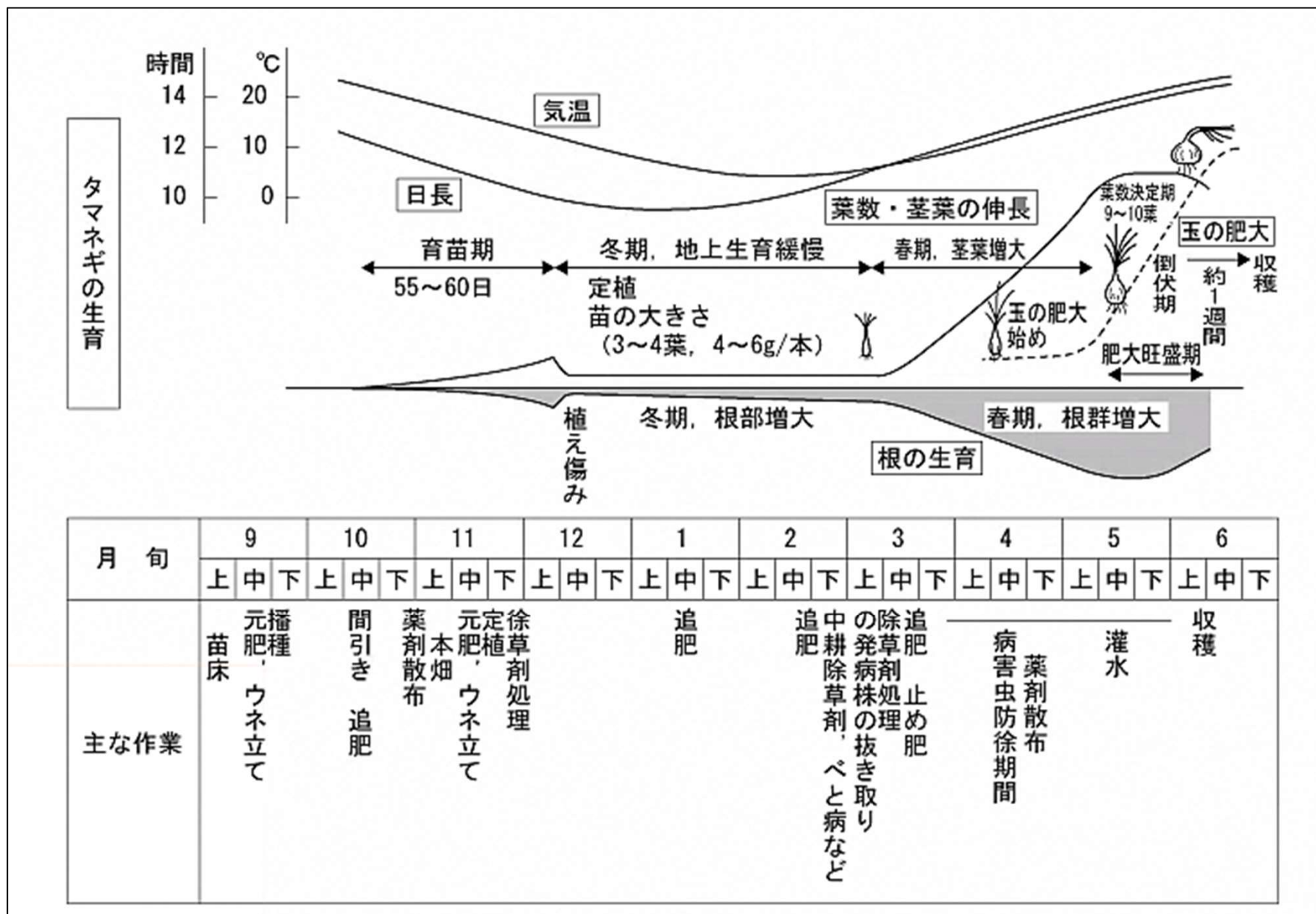
～タマネギ栽培ポイント～

タマネギについて

ユリ科野菜 （新分類ではヒガンバナ科）

- 1、2年生草本 （栽培期間長い）
- 生育適温：15～23℃
寒さに強いが、暑さには弱い。
（生育抑制：25℃以上、生育停滞：30℃以上）
- 土壌pH：6.2～7.3 （目標：6.5）
酸性に弱い（根張りの阻害、土壌病害出やすい）
- 湿害に弱い
排水良好なほ場の選択
- 根群浅い（干ばつの影響受けやすい）
球肥大期の乾燥：生育抑制、小玉化の恐れ

タマネギの生育経過と主な栽培管理



〈苗の生育（播種から定植苗まで）〉

〈農業技術体系 野菜編 第8巻より〉



9月
播種

10

11

定植苗

〈秋まきタマネギ中晩生種の生育〉



活着期

茎葉増大期

肥大始期

倒伏期

11月

12

1

2

3

4

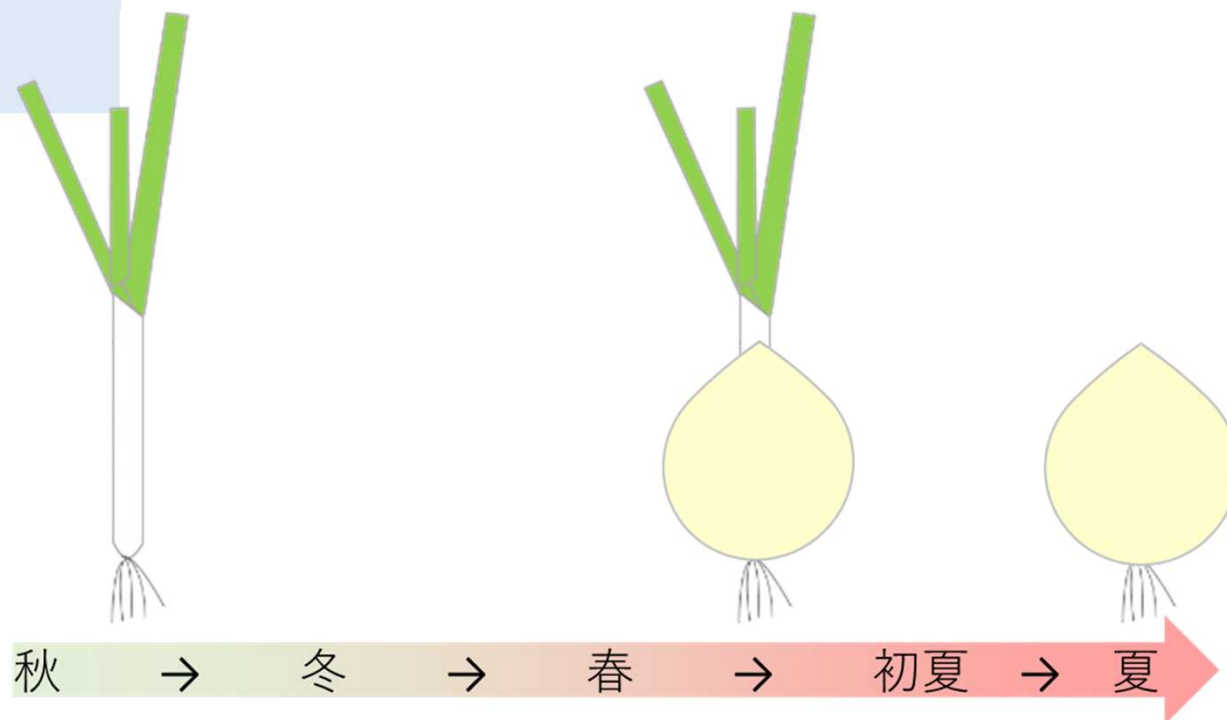
5

6

タマネギの球の肥大の仕組み

〈玉の肥大の条件〉

- ・ 日の長さが長くなる
- ・ 気温が上昇する



秋まき栽培

- ・ 春になり気温が上昇し、日が長くなると肥大を開始

タマネギ（秋まき栽培の目安）

●極早生～早生 品種

定植：11月上、中旬 収穫：4月（3月）～5月

●中生～晩生品種

定植：11月中、下旬 収穫：5～6月収穫

品種選択 と 苗を植える時期 を間違えないようにしましょう！

施肥設計例（1 m²当たり） **※タマネギの生育にはリン酸が不可欠！**

	肥料名	施用量
元肥	完熟堆肥	3 0 0 0 g
	苦土石灰	1 2 0 g
	有機入化成特 A 8 0 1	1 4 0 g
	過リン酸石灰	4 0 g
追肥	磷硝安加里 S 6 0 4	3 0 g

植付適期の苗の大きさ

苗の大きさ（目安）

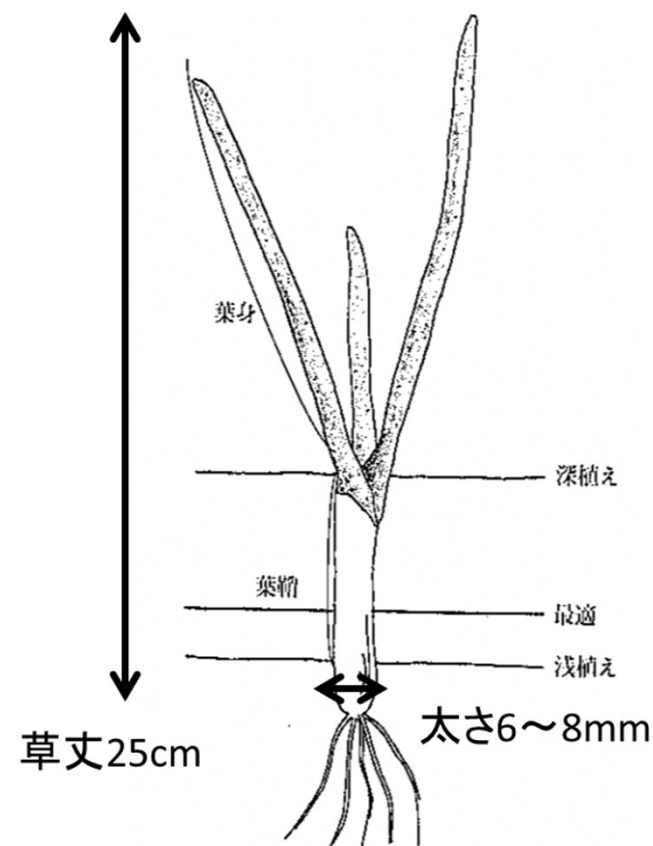
- ・ 葉が3～4枚
- ・ 草丈25cm、太さ6～8mm、重さ4～6g

目安

根元は鉛筆の太さ

苗が大きすぎると・・・
トウ立ちや分球が多くなる

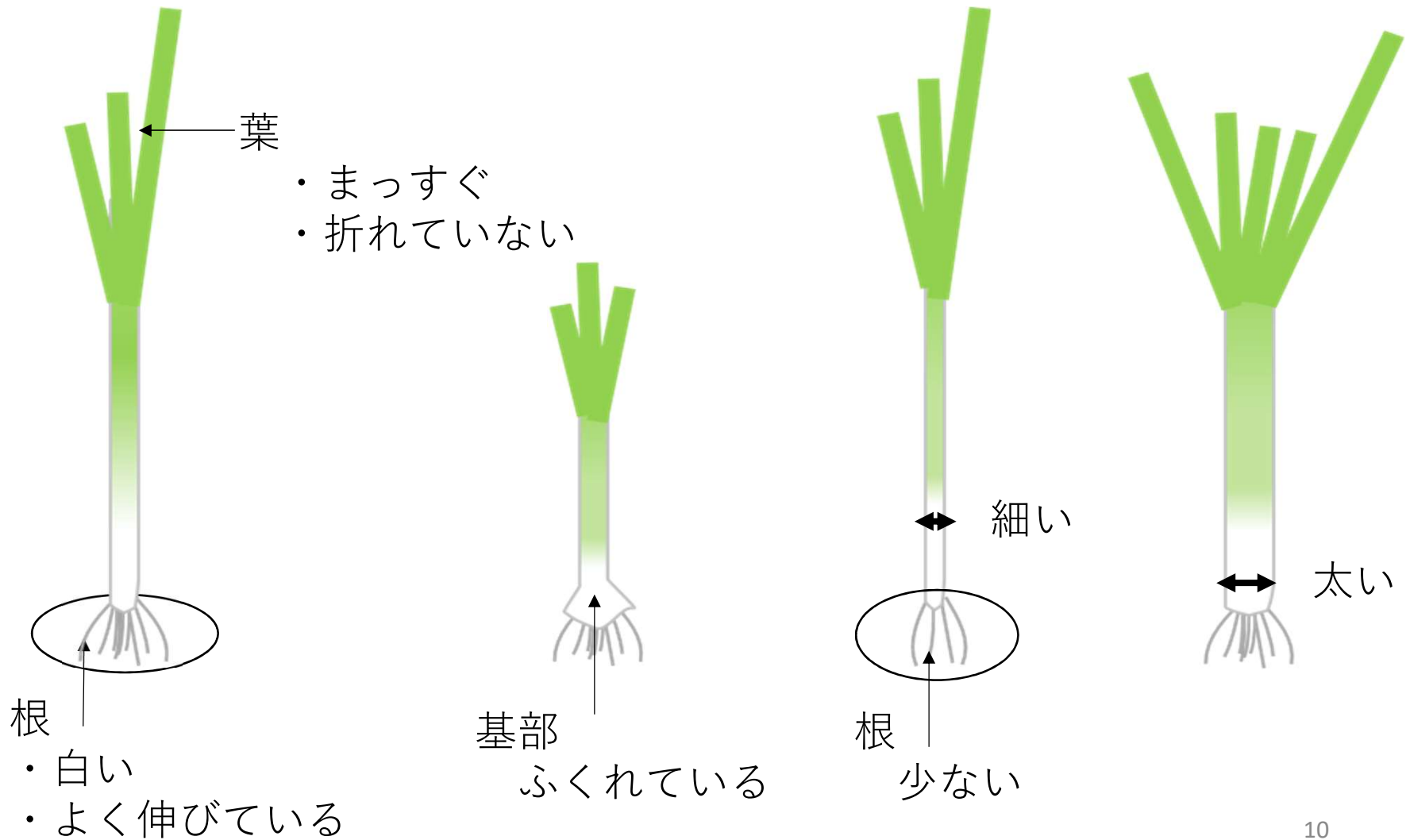
苗が小さすぎると・・・
寒さで枯れる
球が十分に育たない



植付時の苗のポイント ※イメージ図

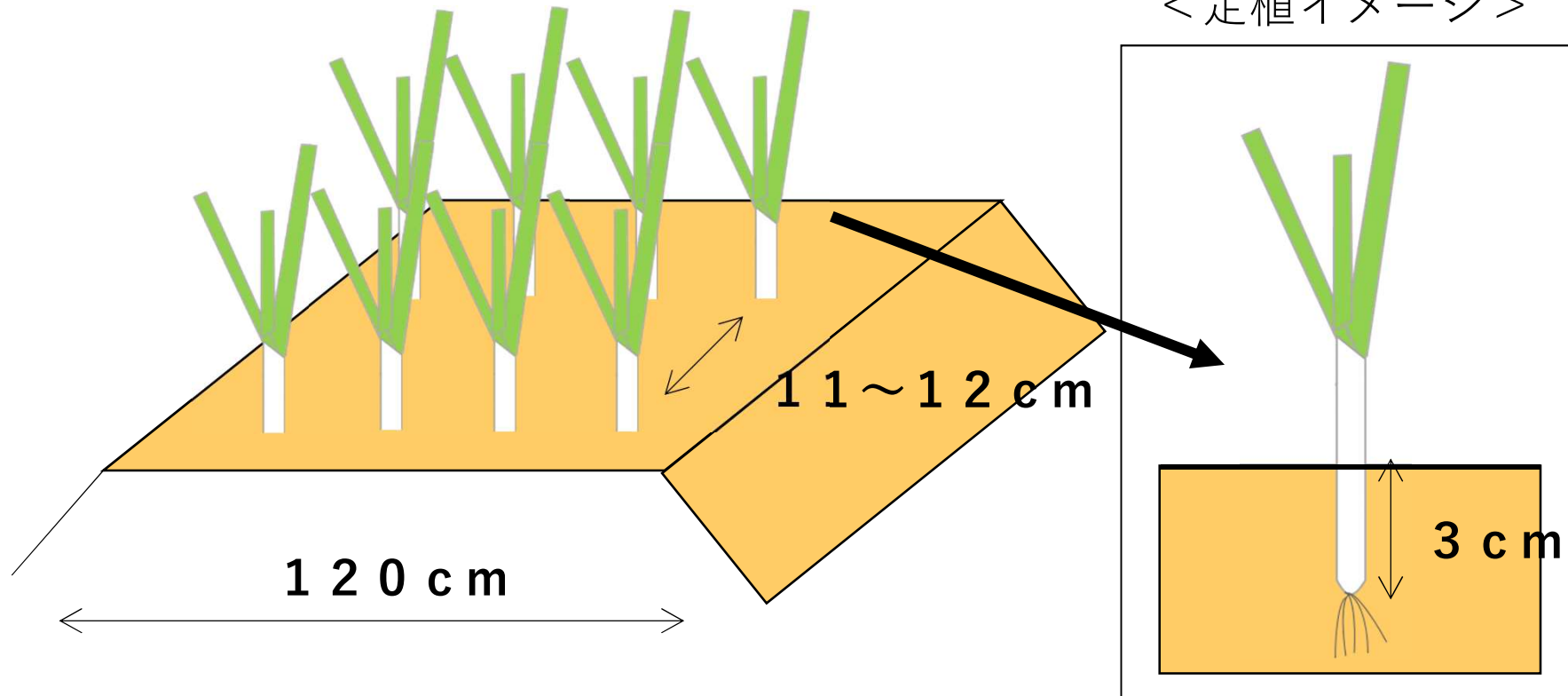
【良い苗】

【悪い苗】



例) 120cmの畝に
条間20cmで4条、株間11~12cm定植

<定植イメージ>



★植え付けポイント★

- ・ 定植の深さは葉鞘部の半分程度（約3cm）、降雨前後に行うのが理想的
※葉の分岐点を埋めない、根が地表に出ないようにする
- ・ 深植え・・・活着の遅れ、春先の生育不良
- ・ 遅植え・・・越冬率が低下するため、適期に定植

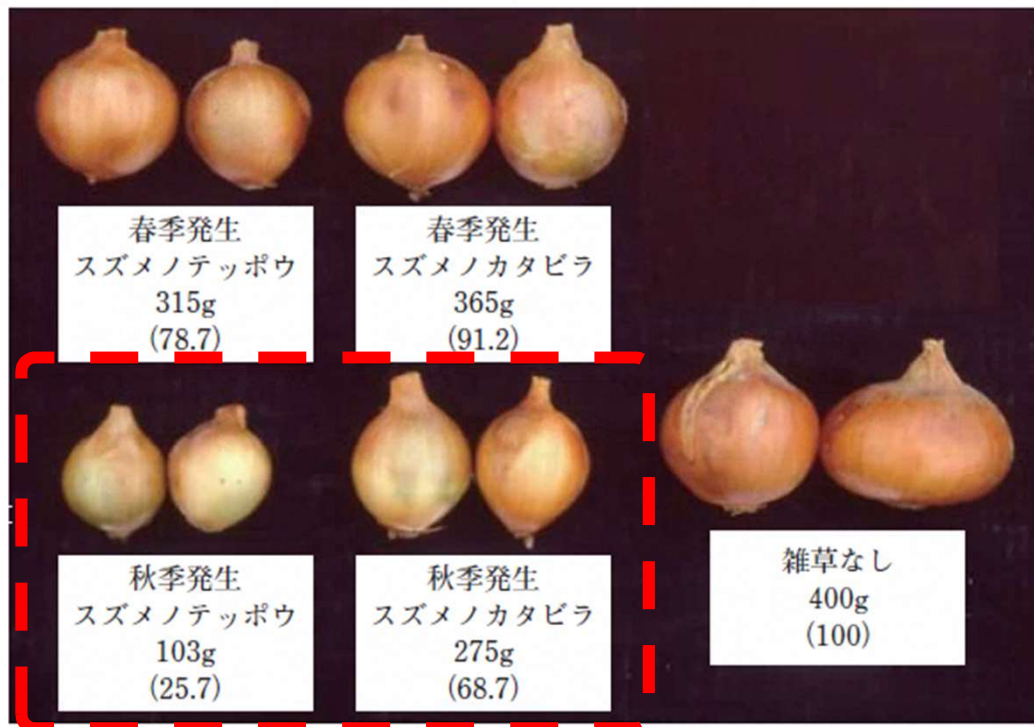
植え付け後の管理 ～雑草管理～

タマネギ・・・**雑草に弱い**

雑草の多発は、

肥料切れや収量低下、病害の多発、収穫作業能率が低下

⇒ こまめな除草を！除草剤やマルチ活用も効果的



※秋に発生した雑草は、球の肥大に影響する

() 内は雑草なしとの対比

植え付け後の管理 ～追肥～

○追肥 （肥料：燐硝安加里 S 6 0 4 など）

★球を大きくするには、株の大きさや葉数確保がポイント
→ 球の肥大開始期（中晩生品種：4 /下旬頃～）までに茎葉を育てる

<1m²あたり>

施肥時期	早生	中生・中晩生	肥料名・量
1回目	12/中	1/中頃	S 6 0 4 など
2回目	1/中	2/中頃	同上
3回目（止肥）	2/下	3/中頃	同上

<注意！>

- ・ 3回目の追肥（止肥）が遅れると肥大の遅れや貯蔵性低下を招く
- ・ 多肥や止肥が遅れると過繁茂し、病害虫が発生しやすくなる

植え付け後の管理 ～土壌水分管理～

○4月～梅雨入り前

乾燥状態が続くことが多い

⇒ 肥大期の過乾燥は肥大不良につながる



灌水量による生育差
(福島県農業総合センター資料抜粋)

○収穫2週間前から

原則として灌水は控える

⇒ 球の裂皮や腐敗、貯蔵性低下を防ぐ

植え付け後の管理 ～収穫～

○収穫適期

- ・ 一般的には、倒伏後約 1 週間後
- ・ 畑全体の 6 ～ 8 割倒伏したら収穫開始

※倒伏後収穫が遅れると腐敗しやすくなる



○収穫作業

晴天続きの日に 2 ～ 3 日間地干し

○保管

風通しが良く、乾燥した場所



< **黒かび病（糸状菌）** > ※貯蔵中に発生する貯蔵病害

- ・ 高温や風通しが悪いと発生しやすい

➡ 乾燥後、涼しい場所や冷蔵庫（10℃くらい）で保管

トウ立ち(※)について

- ・ 秋まきの中生～晩生品種は、
葉鞘径10mm以下（地際の茎の太さ）で**越冬**させる
- ・ **肥切れ**（体内窒素濃度の低下）は**トウ立ちを助長**させる

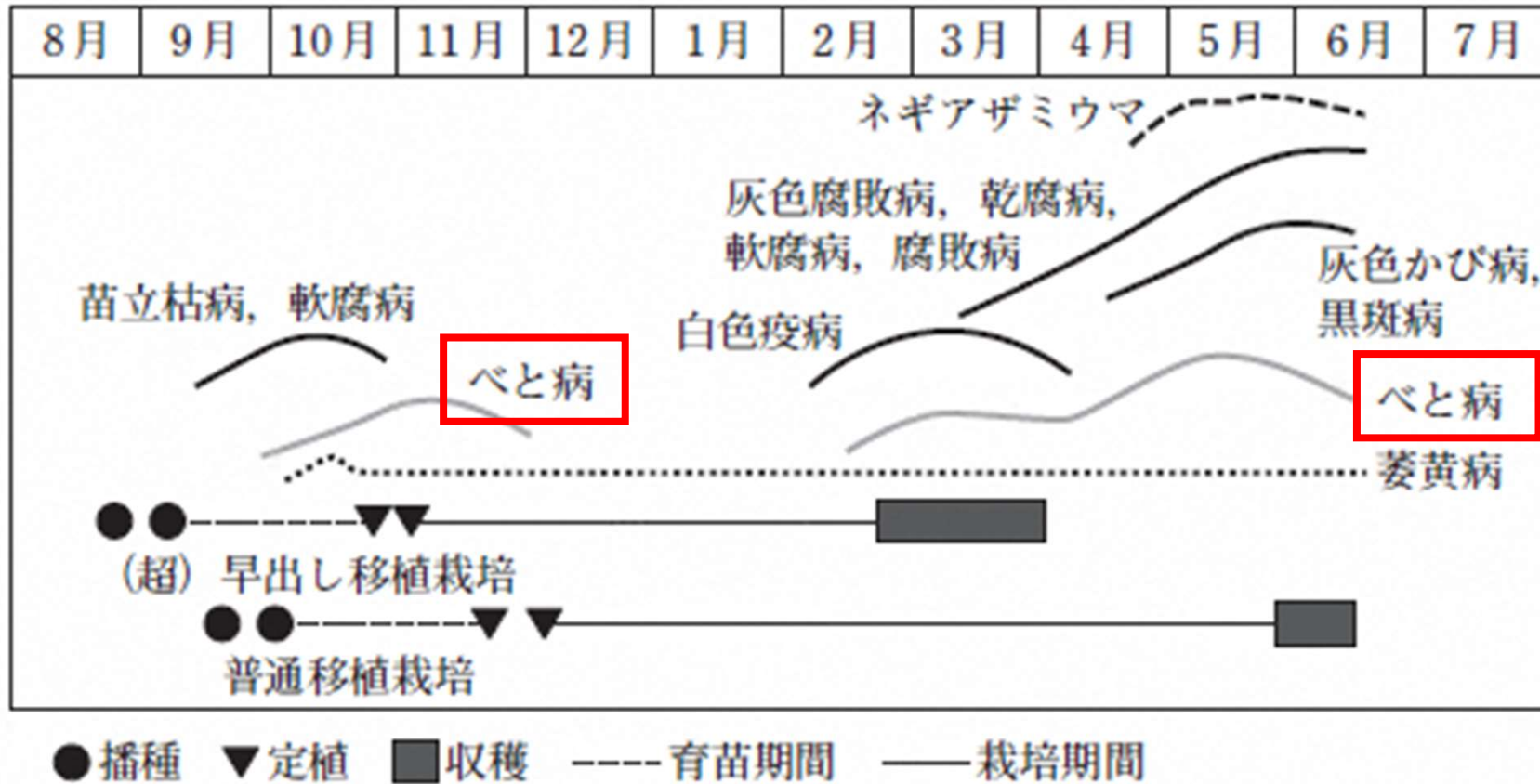
★年内生育の進みすぎや冬～早春の肥料切れは
トウ立ちが起こりやすくなる



<トウ立ち>

植物がある一定の条件（気温、日長の長さなど）になると花芽をつけて花茎を伸ばすこと。

植え付け後の管理 ～病害虫～



秋まきタマネギの主な病害虫の発生時期

～べと病（糸状菌）～

○発病時期：育苗期10～11月、本圃生育盛期4～5月

○発病適温：15℃

○特徴

- ・葉に楕円形から不整形の黄色病斑がみられる
- ・病斑部から折れて垂れ下がる
- ・葉に胞子がみられる



左：多発圃場

右上：大型病斑（二次感染）

右下：湾曲萎縮症状（越年罹病株）

～べと病（糸状菌）～

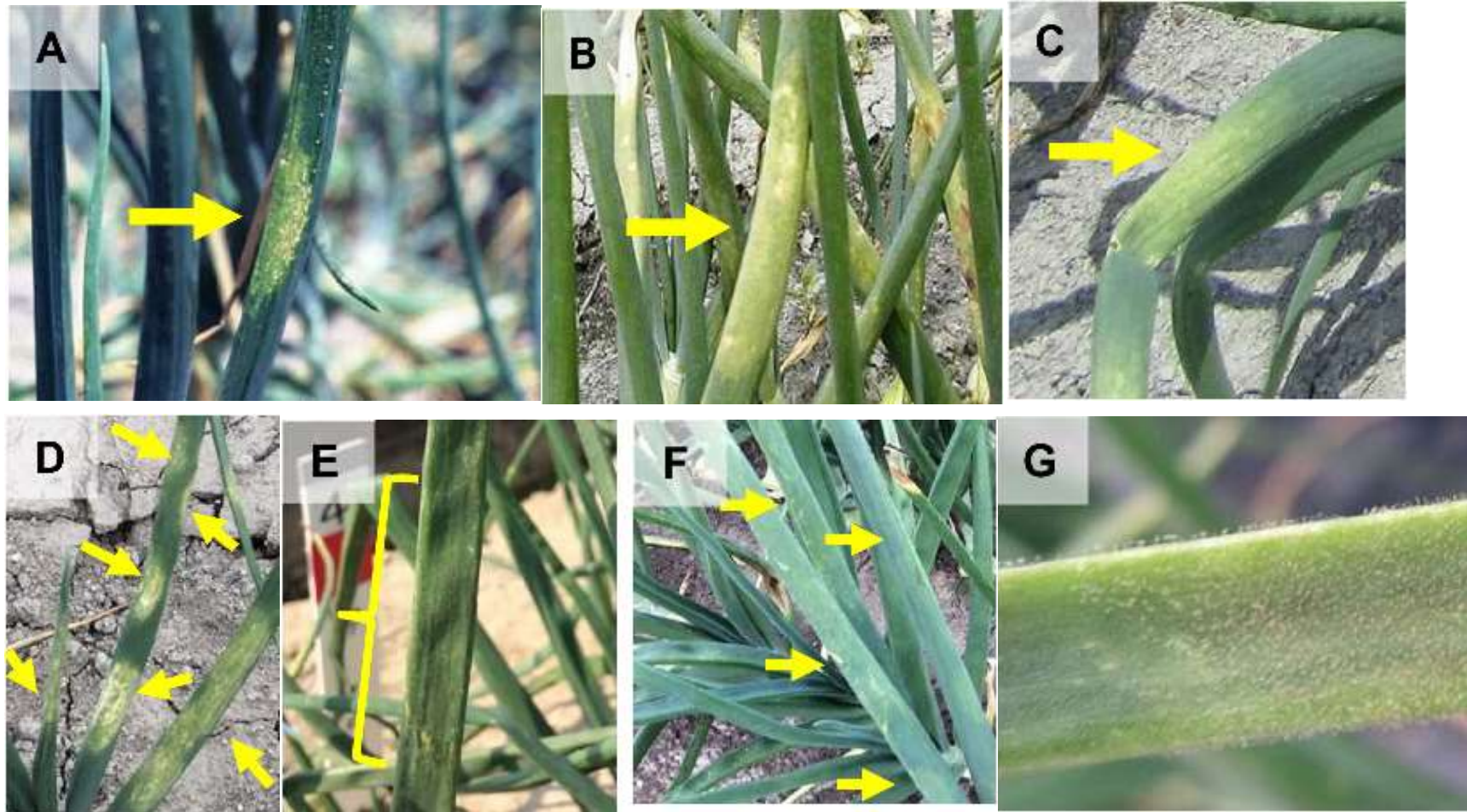


写真 タマネギべと病の二次感染株（発病株）

A～D：病斑。E、F：初期の病斑。G：発病株に形成された分生胞子

～べと病（糸状菌）～

〈対策〉

- 前年にタマネギを作付けしていない場所を選ぶ
（連作する場合、なるべく湛水してから栽培）
- 越年罹病株（生育不良で葉が湾曲、黄化）の抜き取り
（1月には、畑で疑わしい株の抜き取り作業を行う）
- 定期的な薬剤防除
- べと病多発圃場では、被害茎葉を持ち出し適正に処分
※畑に捨てないこと（肥料袋等に入れて処分）

越年罹病株 ⇒



～雑草対策～

雑草が繁茂すると

- ・ 除草の手間がかかる
- ・ 作業効率の低下
- ・ 病害虫の発生源（特に、畑周辺の雑草）

⇒ **収量減少、品質低下につながる**

特に、野菜は
生育初期に雑草の被害を受けやすい！

雑草の種類について

- 大きくわけて3パターン（生育する環境による分け方）
「水田雑草」、「畑地雑草」、「田畑共通の雑草」
- イネ科、カヤツリグサ科、キク科、タデ科が多い
- 一年生雑草、多年生雑草

(例) イネ科雑草

① スズメノテッポウ、

② スズメノカタビラ



雑草防除の考え方

○雑草防除の基本

- ・ 畑に雑草の種子を持ち込まない
- ・ 雑草が小さいうちに防除（雑草種子を畑に落とさない）
- ・ 雑草の生育を抑制する条件を作る

○化学農薬によらない防除

- ・ マルチング
わら、黒か緑色の着色ポリフィルムで被覆
⇒ 被覆下の光線量が少なく、雑草の発生や生育を抑制
- ・ 中耕
栽培途中に浅く耕すと同時に雑草も抑える

○化学農薬による防除 （除草剤が主体）

<利点>

- ・ 除草効果が高く、持続期間も期待できる
- ・ 簡便で能率的、省力的
- ・ 選択的除草ができる など

<注意>

- ・ ラベルを読んで、使用条件等をしっかり確認
- ・ 畑に生えている雑草の種類を知り、発生する雑草に効果のある除草剤を選択する
- ・ 除草剤の種類 （雑草に対する作用の違い）
 - 「土壌処理剤」：まだ雑草が生えていない土にまいて、雑草の発芽を抑制する除草剤
 - 「茎葉処理剤」：すでに生えている雑草にまいて、枯れさせる除草剤

除草剤の種類

◆土壌処理剤のポイント

○効き方

雑草の発芽までの期間に土壌表面に処理剤を散布し、
処理層をつくり枯死させる。

<注意>

- ・ 土壌表面が凸凹では処理層が均一にできない。
除草効果が劣ることもある。
⇒ 砕土、整地を丁寧にする
- ・ 丁寧にムラ無く散布する
- ・ 土壌が湿ったときの散布が一番いいタイミング

除草剤の種類

◆茎葉処理剤のポイント

○雑草の生育初期から生育期間中に
雑草の表面に薬剤を付着させる方法

<特徴>

- ・雑草が幼少で葉2～5枚程度に使用する剤が多い。
例) 使用時期：イネ科雑草3～5葉期

<注意点>

- ・強風や雨上がりや降雨が予想される場合、散布を避ける。
散布後5時間以内に降雨があれば効果が低くなる。

～質問への回答～

殺虫剤について

オルトラン粒剤とダイアジノンを同時に散布あるいは混合して散布していいか

⇒ 農薬の混合（混用）は、推奨していません。

- ・ 混合剤として登録されている農薬の使用と異なり、効果や薬害、作業者安全性が十分に把握されていない場合がある。
- ・ 農薬メーカー等で混用事例集を作成しているが、混用する際の日安でまとめており、品種や生育ステージ、気象・栽培条件などによって薬害が生じる場合がある。

次回、野菜づくり講座

日時：11月18日（土）

10：00～12：00

場所：隠岐の島町役場 町民ホール